

「ふね遺産」(推薦様式) : A4一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

No.(*)	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	対象物： 三重津海軍所跡 所有者（資産管理者）： 佐賀市	◎土地所有者： 国土交通省、佐賀県有明海漁業協同組合
2. 対象物の作成・存在時期	江戸時代末～明治初頭	
3. 現状 (写真添付)	三重津海軍所跡は有明海に注ぐ早津江川河川敷に立地。 発掘調査で確認したドライドックや金属加工施設等の遺構群は、保存のため地下に埋め戻している。  三重津海軍所跡俯瞰写真  ドライドック遺構	◎令和3年9月に「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」をオープン予定。 (三重津海軍所跡に隣接する佐野常民記念館を増改築し、全館リニューアルを図る。)
4. ふね遺産認定基準の該当項目(**)	【認定対象】(4) 【認定基準】(4)(7)	
5. 歴史的・工学技術的意義	江戸時代、福岡藩とともに長崎警備を担当した佐賀藩は、幕末にアヘン戦争を契機とした海防強化のため、海外から入手した西洋技術に関する情報をもとに、藩内で研究を進め、鉄製大砲鑄造や洋式海軍創設(三重津海軍所の設置)の取組を進めた。 洋式海軍創設に関しては、佐賀藩は長崎海軍伝習所へ多くの藩士を派遣し、洋式海軍の知識や技術を習得させ、その伝習において、オランダ人教官の指導の下で晨風丸を建造した。 その後、本格的な海軍伝習のため、三重津に洋式海軍の拠点を設け、伝習施設とともに、洋式船の修理等を行う施設として、「御修覆場(ドライドック)」や「製作場(金属部品の加工施設)」を整備した。ここでは、蒸気軍艦「電流丸」の船底の銅板張替えやボイラー交換等の修理、幕府依頼の蒸気軍艦「千代田形」のボイラー製造を行っている。 2009(平成21)年度以降に佐賀市が行った発掘調査において、このドライドックや金属加工施設等が良好な保存状態で残っていることが明らかにされるとともに、海軍施設に伴う多種多様な遺物も出土した。 調査の結果、このドライドックは、西洋のドックと同じく階段状に作られているが、その構築には石やレンガではなく木と土を用い、在来の土木技術を巧みに駆使したものであることが判明し、現存するものとしては国内最古のものであると評価されている。 また、洋式船の金属部品の加工は、金属素材には洋鉄や和鉄が混在して確認されている中で、検出した遺構や遺物等の分析から、伝統的な鍛冶や鋳物の技術が用いられていることが判明している。 このように、三重津海軍所で取り組まれた修船活動は、西洋技術と在来技術の融合により行われたことが、その調査成果から裏付けられており、幕末における近代化事業の実態を具体的に示唆している。 その後、佐賀藩は、海軍伝習や西洋技術の研究、三重津での洋式船の修船活動を経て、洋式船建造に関する知識や技術を飛躍的に向上させたことにより、1865年には、日本初の実用蒸気船「凌風丸」の完成に辿り着いたのである。 このように、三重津海軍所跡は、日本の産業化における幕末の造船分野の様相をよく表す遺跡として評価され、2013年3月には国史跡、2015年7月には「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として世界遺産に登録されている。	◎佐賀藩は鉄製大砲鑄造のため、日本で初めて実用的な反射炉を建設し、鑄造を実施。(築地反射炉)。  ◎西洋科学技術の研究のため、「精煉方」を設置。藩内外から集めた人材が研究活動にあたる。  ◎佐賀藩は幕府から品川台場に設置する大砲製造を受託。新たに多布施反射炉を建設し、鑄造を実施。  ◎洋式船のボイラー組立に携わった田中久重は東芝の創始者。  ◎ドライドックへの船の入出渠には、有明海の潮の干満差を利用している。
6. 参考資料・文献 (本表に収まらない場合は別途添付する)	別添のとおり	

(\*) No.は学会で記載します。

(\*\*) ふね遺産認定基準の【認定対象】と【認定基準】の項目の内、該当する最もふさわしい項目一つを、文頭の番号で記載して下さい。

<別添> 参考資料・文献

- ・『佐賀市重要産業遺跡関係調査報告書第1集 幕末佐賀藩 三重津海軍所跡』(平成23年度刊行)
- ・『佐賀市重要産業遺跡関係調査報告書第3集 幕末佐賀藩 三重津海軍所跡Ⅱ』(平成24年度刊行)
- ・『佐賀市重要産業遺跡関係調査報告書第5集 幕末佐賀藩 三重津海軍所跡Ⅲ』(平成25年度刊行)
- ・『佐賀市重要産業遺跡関係調査報告書第7集 幕末佐賀藩 三重津海軍所跡Ⅳ』(平成26年度刊行)
- ・『佐賀市重要産業遺跡関係調査報告書第9集 幕末佐賀藩 三重津海軍所関係文献調査報告書』  
(平成27年度刊行)
- ・『佐賀市重要産業遺跡関係調査報告書第10集 幕末佐賀藩 三重津海軍所跡Ⅴ』(平成29年度刊行)
- ・『佐賀市重要産業遺跡関係調査報告書第11集 幕末佐賀藩 三重津海軍所跡Ⅵ』(令和元年度刊行)